

2014 ASPIRE Undergraduate

Research Academy

参加学生報告書

① 留学先について

東京工業大学、南洋理工大学、清華大学、香港科技大学、韓国科学技術院（KAIST）五つの大学から学生が集まり、南洋理工大学にて講義及び研究発表を行う。プログラムテーマは「Sustainable Energy and Environment (water, energy, climate change)」であり、関連する研究施設などの見学も行った。

② 留学前の準備

留学情報は研究室の指導教員から手に入れた。留学に向けて英語のトレーニング（シャドーイングなど）や、プレゼンの準備を行った。ビザの取得はいらない。

③ 留学中の活動及び感想

研究発表では様々なバックグラウンドの人の発表をきくことができる。また、そのような人から斬新なアイデアを得ることができ、自分の研究に大いに役に立った。講義や発表の後には、研究室ツアーやプラントの見学、さらにはシンガポールの観光などを行った。観光の際にはほかの国の人と回るので英語でコミュニケーションをとることになるが、みんな気さくで楽しい人たちだった。

④ 留学を終えて、自分自身の成長を実感したエピソード

日本人の英語レベルの低さを改めて実感した。日本の科学技術のレベルは高いが、コミュニケーションスキルが乏しい。一方、中国の方や韓国の方は積極的で的確な発言をしていた。もっと頑張らなければならないと刺激を受けた。

⑤ 留学費用

出張という扱いなので留学費用はかからなかった。

⑥ 留学先の住居

学生寮に泊まった。シングルルームでとても快適だった。

⑦ 留学先での語学状況

講義も研究発表もディスカッションも全て英語である。話す際は中学英語レベルの文法で十分であるが、聴く際にはそれなりの英語力が必要である。

⑧ 単位認定

短期プログラムなので、単位認定はない。

⑨ 留学経験を今後、どのように活かしたいか

様々なバックグラウンドの人からもらったフィードバックを元に、多様な視点で研究活動を進めていきたい。

⑩ 留学先で困ったこと

とくにないが、シャワーはお湯がでなかった。

⑪ 留学を希望する後輩へアドバイス

とにかく積極的にいろんな人に話しかけること。

① 留学先の概略

参加プログラム: ASPIRE Undergraduate Research Academy

受け入れ機関: 南洋理工大学

香港科技大学、韓国科学技術院(KAIST)、南洋理工大学、清華大学、東京工業大学という、アジア各国のトップレベルの理工系大学の学生が集まり、レクチャーを受け、各々の研究についてプレゼンテーションをすることにより、最先端のエネルギー技術について学びながら交流を図る。

② 留学前の準備

研究室の指導教官の先生からメールでこのプログラムのことを知った。プログラムの中で自分の研究についてのプレゼンテーションがあるので、その準備が必要。

③ 留学中の活動及び感想

エネルギーの専門家の方々によるレクチャー・学生達によるプレゼンテーション・シンガポールの観光レクチャー・プレゼンテーションに関しては、英語力が追い付いておらず、理解するのが難しかった。移動は全てバスを手配して頂いていたので、大変助かった。シンガポール観光を通して、他の国の学生とますます仲を深めることができ、とても良い経験だった。

④ 留学を終えて、自分自身の成長を実感したエピソード

留学前に英語はかなり聞いているつもりであったが、専門的なレクチャーを理解するのは難しかった。他の国の学生は流暢な英語で、質問も積極的にしていたが、日本人はついていくのがやっとだった。他のアジア諸国の学生とのレベルの差を身を持って実感したことにより、現状に満足せず、世界に目を向けて、もっと上を目指さなければいけないという危機感を抱くことができた。学部4年生のうちにこのことに気付けたのはとても有意義であり、研究を進める中で、更なるスキルアップを図りたいと思う。

⑤ 留学費用

渡航費、プログラム参加費、食費、宿舎費は全て南洋理工大学・東京工業大学に負担して頂いた。海外旅行保険、その他個人的な活動にかかる経費は自己負担。

⑥ 留学先での住居

南洋理工大学内の寮、一人部屋、南洋理工大学の方で手配して頂いた。

⑦ 留学先での語学状況

留学期間中は英語を使用。リスニング・スピーキングに関しては、事前にかなり練習しておくことが必要。

⑧ 単位認定

行わない

⑨ 留学経験を今後、どのように活かしたいか

自分の未熟さを思い知ったので、英語力の向上に励みたい。また、他国の人と交流を図ることにより、幅広い価値観や文化に触れて学ぶことが多々あることに気付いたので、これからは自ら積極的に国際交流のイベントなどに参加しようと思う。

⑩ 留学先で困ったこと

特になし

⑪ 留学を希望する後輩へアドバイス

このプログラムでは、アジア諸国の優秀な学生と交流することができ、様々な面で刺激を受けることができる。このような貴重な経験ができる機会はめったになく、確実に成長できるので、是非積極的に参加してほしい。現地での生活面については、かなり手厚いサポートをしてくださるので、安心して参加できる。

報告書内容

① 留学先(参加プログラム/受入れ機関)の概略

ASPIRE Undergraduate Research Academy

② 留学前の準備

英語で自分の研究内容をプレゼンできるように練習しました。

③ 留学中の活動及び感想

アジア各国から集まった仲間と交流しながら多くのことを学ぶことができとても貴重な経験になりました。移動を含めて5日間という短いプログラムでしたが、国内では得ることができない経験をすることができました。毎日が充実していて楽しかったです。ここで作った仲間とこれからも連絡を取り合って切磋琢磨したいと思えます。

④ 留学を終えて、自分自身の成長を実感したエピソード

海外で自分の研究内容を英語でプレゼンすることはとてもいい経験になりました。これから大学院に進むとさらにこのような機会が増えてくると思うので、今回うまくいかなかった点は次回で改善できるようにしたいです。他大学の学生の方のプレゼンはかなりレベルが高く参考になりました。

⑤ 留学費用

渡航費は東工大から費用を出していただきました。また、現地での宿泊費および食費や活動経費は主催の南洋理工大学から出していただきました。ありがとうございます。

⑥ 留学先での住居

寮

⑦ 留学先での語学状況

アジア各国の学生が集まったプログラムだったので、ネイティブスピーカーがいない分話やすかったです。ただ、自分の意見を完璧に表現できたわけではないので、出発前にもっと英会話の練習をしておけばよかったと航海しました。

⑧ 単位認定

なし

⑨ 留学経験を今後、どのように活かしたいか

これからもグローバルな視点で物事を考え、将来海外で働くことができるように在学中は機会を見つけてこのような海外研修に参加してみたいともいました。

⑩ 留学先で困ったこと(もしあれば)

特になかったです

⑪ 留学を希望する後輩へアドバイス

今回は私にとっての初めての海外プログラム参加でした。今まで参加したいとは思っていたものの、勇気がなくなかなか足を踏み出せませんでした。今回思い切って応募してみて、実際に選考に通って参加することになって、とてもいい経験になりました。異文化を知ることもちろん大切ですが、自分の知らない環境の中で、周りに助けられて生活することで思いやりの大切さなども実感することができ、アカデミックな内容以外にも多くのことを得ることができました。将来交換留学や短期留学を考えている方は、今回のこのプログラムのような5日間という超短期のプログラムに参加してみることを強くお勧めします。短い期間ですが、異国で生活することとは、日本語が通じない国での生活とはどのような物なのか身を持って感じるすることができます。